

# 平成 22 年度事業報告

自 平成 22 年 4 月 1 日

至 平成 23 年 3 月 31 日

## I. 事業概要

平成 22 年度は本協会にとりまして、社団法人から公益社団法人に移行した事実上の初年度にあたり、役職員とも公益社団法人としての誇りと自覚をもって事業運営にあたりました。一方、日本経済は回復への期待が膨らんだものの景気回復には結びつかず、厳しい環境は変わらず消費低迷のまま推移いたしました。本協会の主要事業である通信教育事業の受講受験生は、ほぼ平成 21 年度並の実績を維持しましたが、経常費用の増加等があり、当期経常増減額はマイナスとなり、正味財産残高も減少いたしました。

ところで、年度末である平成 23 年 3 月 11 日（金）、突如「東日本大震災」が発生しました。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された多くの方々に、心よりお見舞い申し上げます。また、被害に遭われた地域の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。この震災は、国内観測史上例を見ない最大規模の大地震とともに最大約 30 メートルに及ぶ津波を誘発し、その津波は多数の犠牲者を出し、環境破壊やインフラの損害を与えました。また福島原子力発電所も損壊を受け、漏れ出した放射性物質により現在も不安な状態が続いております。本協会では、公的な機関からの発表を中心に各種情報の収集とそれぞれの対応を慎重に検討し、「緊急災害時動物救援本部」の構成団体としての活動及び本協会本部・支部役員等としての活動を行いました。

事業年度末の災害であったことから、平成 22 年度に予定していた事業はほぼ滞りなく無事に実施できましたが、震災後に初めて迎える平成 23 年度の事業については、次のように大幅に見直すこととしております。

- ① 岩手、宮城、福島3県を中心とする被災者について、愛玩動物飼養管理士通信教育の受講受験料を免除。
- ② 大震災による被災地域の愛玩動物飼養管理士受講受験者の激減、日本経済の低迷に伴う愛玩動物飼養管理士受講受験者の減少が想定されることへの対応。
- ③ 被災動物の救援活動を行う都道府県支部への支援強化。
- ④ 受講生の大幅な減少による収入減対処と被災地域への支援を行う支部のための財源として、役員報酬等の減額と経費の全面的見直しと節減を実施。

「動物の愛護及び管理に関する法律（以下、動物愛護管理法という）」の附則（平成17年6月22日法律第68号）第9条「政府は、この法律の施行後5年を目途として、新法の施行の状況について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。」に基づき、環境省の中央環境審議会動物愛護部会に、動物愛護管理法の見直しについて協議する「動物愛護管理のあり方検討小委員会」が設置され、平成22年度は主として「動物取扱業の適正化」についての協議が計13回開催されました。本協会からは臼井玲子理事が委員として参加しております。

以上を踏まえ、平成22年度に行った主な事業について報告いたします。

#### (1) 動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発事業

##### ① 国及び地方自治体の事業への協力

平成22年度は動物愛護週間制定60周年記念切手が好評であったことから、環境省等の関係行政機関が主催する動物愛護週間行事に際して、記念切手の発行など記念行事も開催され、本協会は全国各地で行政への協力を行いました。

##### ② 動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発を行う指導者の養成

## と教育

全国各地において、上述の普及啓発活動を担当できる指導者を養成するため、二級愛玩動物飼養管理士（30期）及び一級愛玩動物飼養管理士（26期）の通信教育を実施しました。また、平成22年度から、主に旧教本（平成16年度以前の教本）で学習された方を対象に、新しい教本で学習しながら2級のスクーリング（講習会）を受講できる再履修講座を開催し、生涯学習の更なる充実を図りました。

### ③ 調査研究及び情報の収集、提供

科学的知見を踏まえた適正な方法及び内容で各種普及啓発活動を実践するため、管理士のスキルアップの上からも、動物の暮らし向き調査（2009年、犬・猫）の続行は有益であるが、平成22年度は、動物の生命表作成の上で大切な動物の生存と死亡の情報について、数（調査数）を増やすために、今までよりもかなり簡易化した調査票を用いて実施しました。

### ④ 相談会、講習会、講演会、展示会及び調査研究発表会等の開催

広く動物の愛護と適正な飼養及び管理を普及啓発するために、人と動物の共生を考える公開セミナーを「人と動物が幸せに暮らすために ～犬・猫の食事～」と題して実施しました。

### ⑤ 調査研究活動への助成

各種普及啓発活動の実施に必要な科学的知見の整備に関する調査研究の活性化及び関連研究者の育成を図るため、大学等に対して調査研究費を助成しました。

### ⑥ 広報誌等図書印刷物の刊行

動物の愛護と適正な飼養及び管理に関する最新の知識や情報を広く社会に伝達するために、機関誌『愛玩動物』を隔月に発行するとともに、本協会ウェブサイトにより多く活用願うために全面的な見直しを行いました。

(2) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

平成 23 年 3 月 11 日（金）に発生した「東日本大震災」に関する対応につきましては、環境省のご指導のもと、財団法人日本動物愛護協会、社団法人日本動物福祉協会、社団法人日本獣医師会とで構成する「緊急災害時動物救援本部」としての協働活動を進めることとともに、本協会独自の被災動物救援に向けた取り組みも行っております。

幅広い情報の収集を図るために、関係団体との情報交換を行うとともに、「動物 I D 普及推進会議」等に参加しました。

## II. 事業内容

### 1. 動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発事業

#### 1) 国及び地方自治体の事業への協力

##### (1) 環境省等の関係行政機関が主催する動物愛護週間行事等への協力

###### ①動物愛護週間ポスターの配布

環境省が作成した動物愛護週間ポスターを各都道府県の会員に配布し、動物愛護精神の高揚を図りました。

###### ②中央行事：動物愛護ふれあいフェスティバル

環境省は広く国民の間に動物の愛護と適正な飼養についての理解と関心を深めるため、動物愛護管理法に基づき、動物愛護週間に各種行事を実施しています。平成22年9月12日(日)、18日(土)の両日、環境省、東京都、台東区、本協会を含む動物愛護関連公益法人等によって組織された動物愛護週間中央行事実行委員会の主催による「動物愛護ふれあいフェスティバル」が、「いのち輝け 人と動物の愛の輪で」のスローガンのもとに開催されました。2日間にわたり、延べ12,335名の参加者を得ました。

#### 9月18日(土)、上野恩賜公園内噴水池前広場及び恩賜上野動物園の行事内容

会場	内容
大テント	動物愛護セレモニー、動物愛護週間中央行事実行委員会切手贈呈式、愛犬しつけ方教室、どうぶつ紙芝居上演、聴導犬実演、「ふやさないのも愛」〇×クイズ大会
中テント	ペット写真展、動物クイズ広場 冊子『ふやさないのも愛』・普及啓発うちわ配布
パネル展示コーナー	動物愛護週間ポスターコンクール優秀作品・動物の個体識別事業(マイクロチップ)の展示
動物愛護相談センター広場	動物愛護相談センターのお仕事紹介、クイズコーナー、パネル展示
こども広場	粘土創作コーナー、動物折り紙コーナー、動物お絵描きコーナー、アニマルフォトスタジオ
ブース広場	各種ゲーム、コンテスト、パネル展コーナー、アンケート調査、ペットフードサンプリング、実行委員会切手販売、ペット美容実演
上野動物園	こども動物園、動物愛護映画上映(動物園ホール)
抽選コーナー	スタンプラリー抽選会、動物相談・動物休息所

中央行事会場の本協会中テント内に「動物クイズ広場」を設け、東京都支部が、犬、猫、小鳥、小動物に関する〇×クイズを259名に実施し、来場者に人気を博しました。高得点の方には「動物はかせ」として認定する旨の表彰状と、協会シンボルマークをかたどった子ども用ノートを贈呈しました。また、テーマ「ふやさないのも愛」に沿ったパネル展示、パンフレット配布(340部)、動物とのふれあい方教室(36名参加)などを実施し、愛犬と来場した飼い主を対象に、マナー袋の配布(272枚)を行うとともに、鑑札・狂犬病予防注射証の所持者には満点飼い主(14名)として表彰状等を贈呈しました。

### ③各団体表彰式、動物愛護シンポジウム

9月12日(日)は上野公園内東京国立博物館平成館講堂にて、各団体の表彰式と動物愛護シンポジウム テーマ「ふやさないのも愛～繁殖制限を考える～」を開催しました。動物愛護シンポジウムでは、猫の生態、ウサギの繁殖、地域猫対策などに関する講演とパネルディスカッションを行いました。

### ④都道府県等が主催した行事への参加

都道府県等での動物愛護週間行事は多彩に行われました。都道府県・市等と共催または後援・協賛の形で行事に参加・協力した支部は次の通りです。

#### 都道府県が主催した動物愛護週間行事に参加した支部 (35、県令順)

北海道、宮城県、秋田県、福島県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
--

### ⑤環境大臣表彰の受賞

平成22年9月21日(火)、動物愛護週間行事の一環として、動物の愛護とその適正な管理の推進に関し、顕著な功績のあった個人7名が、平成22年度動物愛護管理功労者として環境大臣から表彰されました。

本協会から経徳禮文副会長(当時)が、社団法人ジャパンケネルクラブ理事長及び本協会常任理事並びに副会長として、長きにわたり本協会並びにペット業界の健全な発展と育成に貢献したこと、関係行政機関と連携を図りつつ、家庭動物の愛護精神の高揚と適正飼養の普及啓発に尽力したこと、動物の愛護と適正な飼養及び管理について普及啓発するための指導者である「愛玩動物飼養管理士」約11万人を養成したこと、これらの功績が認められ、表彰されました。

(2) 環境省等の関係行政機関が作成したパンフレットやポスター等の増刷や配布協力協会が増刷の許可を頂いている環境省発行の普及啓発用パンフレット9種を増刷し、各都道府県支部等の活動を通じて有効活用を図りました。

内 容	部数	配布先
あなただけにできること ー動物の繁殖制限ー (A4)	5,210	都道府県支部(動物愛護週間行事、イベント等)、 公開セミナー会場、 保健所等
まいごにしないで捨てないで (A4)	4,464	
捨てないで迷子にしないで (A5)	4,000	
動物の愛護及び管理に関する法律のあらまし (A5)	3,870	
ほんとうに飼えるかな?かう前に考えよう (A4)	8,120	
飼う前に考えて (A5)	6,400	
まもれますか?ペットの健康と安全 (A4)	9,960	
めざせ!満点飼い主 (A4)	5,470	
ペットフード安全法のあらまし (A5)	2,640	
合 計	50,134	

(3) 関係地方自治体の動物愛護センターや保健所等が行う普及啓発事業への協力  
平成22年度、地方自治体が実施した研修会等に、本協会が派遣した講師等は次の通りです。

兵庫県健康福祉部生活消費局生活衛生課動物衛生係	平成23年2月25日	兵庫県との災害時における動物救護活動に関する検討会議	平井 潤子
大津市動物愛護センター	平成22年4月25日他計18日	ねこの飼い方講習会	愛玩動物飼養管理士視聴覚教材猫編上映

(4) 関係地方自治体が設置する動物愛護推進協議会への参画  
各都道府県等が定める動物愛護推進員設置要綱等に基づき、平成22年度は動物愛護推進員として東京都2名、広島県8名、広島市6名、福山市3名、呉市2名の愛玩動物飼養管理士の推薦依頼があり、協力しました。現在、本協会が推薦した動物愛護推進員総数は約200名です。

(5) 動物愛護管理研修への参加  
環境省自然環境局総務課動物愛護管理室は、平成22年10月5日(火)から8日(金)の4日間にわたり、全国の自治体で動物愛護行政に携わる職員約90名を対象に、環境調査研修所で研修を行いました。本協会からは、山崎千寿職員がオブザーバーとして参加し、全国の動物愛護担当者との情報交換を行いました。

(6) 本協会会議室の提供  
動物愛護週間中央行事実行委員会(環境省、東京都、台東区他8団体)が行った平成22年度の中央行事の運営に関する打合せに際して、会議室を提供しました。

## 2) 動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発を行う指導者の養成と教育

### (1) 愛玩動物飼養管理士通信教育の実施

二級愛玩動物飼養管理士(30期)及び一級愛玩動物飼養管理士(26期)の通信教育を実施しました。平成22年度の愛玩動物飼養管理士の新規受講者総数は10,777名であり、前年度比101%(115名増)で、平成17年度と同じ水準となりました。内訳は、1級新規受講者数は2,115名で前年度比98%42名減、2級新規受講者数は8,113名で前年度比101%(102名増)となりました。高等学校からの準2級新規受講者数は549名で111%、55名増でした。構成は、スクールからの団体受講が6,864名(構成64%、151名増)、一般が3,913名(構成36%、36名減)となりました。平成22年度の認定試験は、全国56会場で12月19日(日)に実施しました。試験の結果は次の通りでした。

認定試験実施結果 (単位:名)

受験級	受験資格者数	受験者数	合格者数	合格率(%)
一級	2,156	2,075	1,638	78.9
二級	8,304	7,978	6,375	79.9
準二級	569	564	415	73.6
計	11,029	10,617	8,428	79.4

## (2) 愛玩動物飼養管理士養成制度採用校との協力

全国の専門学校等の101校で愛玩動物飼養管理士の通信教育が実施されました。うち、規程による指定校は次の18校です。

横浜トリミングスクール、学校法人東京愛犬学園 東京愛犬専門学校、リバティーペットケアカレッジ、専門学校ちば愛犬動物学園、浜松トリミング専門学院、九州ペット美容専門学院、学校法人高橋学園 エス・ワン動物専門学校、学校法人孔明学園 東北愛犬専門学院、北海道愛犬美容学園、学校法人 HAC 国際学園・群馬動物専門学校、ナンバペット美容学院、国際ペットワールド専門学校、沖縄県立中部農林高等学校、学校法人穴吹学園 穴吹動物専門学校、専門学校 ルネサンス・ペット・アカデミー、沖縄ペットワールド専門学校、学校法人菅原学園 仙台総合ペット専門学校、学校法人穴吹学園 専門学校穴吹看護カレッジ

平成22年7月10日(土)に第1回スクール代表者会議が開催され、指定校18スクール及び100名以上受講している21スクールの計39スクールのうち、20スクールの出席を得て、移行認定の説明と通信教育全般についての討議がなされました。

また、平成19年度から、講習会の欠席者の代替レポートを廃止し、欠席者は認定試験を受験できなくなりました。そのため、団体に講習日を決定するスクールへの救済措置として、スクール代表者が欠席理由をやむを得ないものとして認めた場合に限り受講可能とした予備講習を、平成22年11月、2会場4教室(東京1・2級、大阪1・2級)で開催し、77名の受講者を得ました。

## (3) 生涯学習講座の実施

平成22年度は愛玩動物飼養管理士再履修講座と題して、2級通信教育のスクーリング(講習会)を受講する講座を次の通り開催しました。

会場	開催日	参加人数
① 福岡県福岡市	平成22年7月18日(日)	7名
② 北海道札幌市	平成22年7月31日(土)	7名
③ 大阪府大阪市	平成22年7月31日(土)	22名
④ 東京都大田区	平成22年8月28日(土)	58名
計		94名

## 3) 調査研究及び情報の収集、提供

(1) 犬・猫について、動物の暮らし向き調査研究(2010年)を、広報誌『愛玩動物』平成23年1月号(通巻217号)に同封して実施しました。

種別	件数
犬の調査票(管理士用)	1,853
犬の調査票(一般用)	1,043
猫の調査票(管理士用)	989
猫の調査票(一般用)	672
計	4,557

## (2) 動物の暮らし向き調査研究(2009年)の報告

機関誌『愛玩動物』平成22年11月号(通巻216号)で犬の暮らし向き調査研究(2009年)の概要

について、平成23年3月号（通巻218号）で猫の暮らし向き予備調査研究（2009年）の概要について報告しました。また、第12回IAHAI0（平成22年7月1日～4日、ストックホルム）に「犬の暮らし向き調査研究結果（2008年を中心として）」（公益社団法人日本愛玩動物協会飼養管理調査研究委員会、崎田克康・白井百合・林谷秀樹・喜多加津乃・大島誠之助・菅野 茂・山崎恵子・小川益男）として報告しました。

### （3）閲覧室の蔵書の収集と提供

図書閲覧室で各種文献・学術論文等の収集（約30冊増）と提供（約10冊貸出）を行いました。

## 4）相談会、講習会、講演会、展示会及び調査研究発表会等の開催

### （1）支部長会議開催

平成22年6月19日（土）、公益社団法人への移行に伴い、初めての試みとして、支部長、事務局長、会計の支部三役を招集し、支部長会議を開催しました。まず、小川会長から公益社団法人への移行の意義、平成22年度支部活動計画と収支予算報告、支部長委嘱状授与、役職別説明会（支部長・副支部長、会計）等を行いました。特に会計担当者には、公益社団法人への移行による会計制度の変更について説明いたしました。

### （2）ペット飼養相談会の開催

各都道府県支部が動物愛護週間等でペット飼養相談会を開催しました。

### （3）電話や手紙によるペット飼養相談の受付

電話や手紙などによりペット飼養に関する相談を受けました（約400件）。

### （4）人と動物の共生を考える市民公開セミナーの開催

一般市民を対象とした動物の愛護と適正飼養管理知識の普及のため、恒例の「人と動物の共生を考える公開セミナー～動物とのよりよい関係をめざして～」の第13回を、全国7会場にて開催しました。今年度の基調講演のテーマは、「人と動物が幸せに暮らすために～犬・猫の食事～」とし、獣医学博士の大島誠之助理事と獣医師の荒井延明先生に講演をお願いしました。

また、あわせて、開催地行政担当者による動物愛護行政の取り組み、愛玩動物飼養管理士による適正飼養に関する飼養体験についての発表を実施し、聴講者520名から好評を得ました。

なお、環境省及び開催県・開催市のご後援をいただきました。

公開セミナー開催地

会 場	開 催 日	参加人数
① 鳥取県会場	平成22年11月23日(火・祝)	28名
② 石川県会場	平成22年11月28日(日)	35名
③ 兵庫県会場	平成23年2月5日(土)	67名
④ 神奈川県会場	平成23年2月19日(土)	171名
⑤ 群馬県会場	平成23年2月26日(土)	61名
⑥ 愛知県会場	平成23年3月6日(日)	109名
⑦ 高知県会場	平成23年3月13日(日)	49名
⑧ 福島県会場	東日本大震災のため中止	—
計		520名

### （5）ペット写真展の開催

人とペットとのふれあいの楽しさ、動物愛護の心などが表されている写真を通じて、写す側、鑑賞する側双方の動物愛護精神の涵養を図ることを目的として、一般公募方式により「第30回全国ペット写真コンテスト」を開催しました。今回は第30回を記念して、入選を5点増設しました。総勢285名の方から705点の応募をいただきました。その内訳は次の通りでした。

全国ペット写真コンテスト応募実績

動物種類	応募点数	割合 (%)
犬	423	60.0
猫	157	22.3
鳥	41	5.8
小動物	42	6.0
その他	42	6.0
計	705	100

8月6日（金）に開催した本審査会において、主催者、後援者及び写真家により厳正に審査した結果、50点の入賞作品を選出、最優秀作品に授与するペット大賞（環境大臣賞）は、河野 實さん（京都府亀岡市）の作品「仲良く合唱」に決定しました。上位入賞者表彰式は9月12日（日）、中央行事屋内会場（東京国立博物館平成館）において行い、受賞者には、賞状及び副賞として入賞作品をプリントしたトートバッグ及び賞金を贈呈しました。入賞作品はパネルにして、9月18日（土）中央行事屋外会場内テントに展示し、来場者から好評を得ました。

後援は、環境省、社団法人ジャパンケネルクラブ、一般社団法人ペットフード協会、日本鳥獣商組合連合会からいただきました。過去の全国ペット写真コンテスト入賞作品パネルは、次の貸与先に貸出しを行い、有効に利用されました。

ペット写真パネル貸与先

行 事 名	貸 与 先
動物愛護週間行事	山形県、鹿児島県 山形県鳥獣商組合、福島県支部、千葉県支部、長野県支部、静岡県支部、岡山県支部、広島県支部
動物愛護館まつり	静岡県動物保護協会静岡支部
主催行事	長野県支部、広島県支部、宮崎県支部

#### （6）管理士による調査研究発表会

全国7カ所で行った公開セミナーの機会に、管理士によって行われた適正飼養に関する調査研究の成果等について発表会を開催しました。

#### 5）調査研究活動への助成

家庭動物の適正な飼養管理について、科学的知見を踏まえた各種普及啓発活動を実施するための基盤整備を図ることを目的に、調査研究活動への助成事業を行いました。

- ① 平成22年度の募集期間は平成22年9月15日（水）～平成22年11月15日（月）で、主に協会ホームページ、学会誌等、動物関係大学・学部を中心に広報を行いました。合計16名からの応募があり、調査研究助成等委員会で審査の結果、下記の8名を採用し、合計355万円の助成を行いました。平成22年度の助成期間は、平成23年1月～平成23年12月までの1年間です。

1	柴田 秀史	東京農工大学 大学院 農学研究院 獣医解剖学研究室 准教授		53 才
	調査研究課題	家庭動物における認知症に係わる記憶機能の基盤となる脳領域の回路解析		
	研究費総額	80 万円	助成額	45 万円
2	中島 定彦	関西学院大学 文学部 総合心理学科 教授		45 才
	調査研究課題	飼い主がしつけ教室で学ぶこと -犬の行動原理の理解テストを通じて-		
	研究費総額	60 万円	助成額	25 万円
3	近江 俊徳	日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医看護学科 准教授		44 才
	調査研究課題	家庭動物を対象としたマルチローカス STR 解析による身元証明（個体識別）技術に関する研究		
	研究費総額	150 万円	助成額	70 万円
4	田中 実	日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 動物科学科 動物生理制御学教室 教授		60 才
	調査研究課題	早期離乳ストレスによる動物の異常行動のプロラクチンによる予防および矯正効果の検討 -伴侶動物の問題行動の予防と治療への応用を目的として-		
	研究費総額	400 万円	助成額	60 万円
5	青木 人志	一橋大学 大学院 法学研究科 教授		49 才
	調査研究課題	法教育および環境教育との接合を意識した動物愛護教育の方法と教材の開発		
	研究費総額	80 万円	助成額	45 万円
6	大月 隆寛	札幌国際大学 人文学部 現代文化学科 教授		51 才
	調査研究課題	北海道における「鳥獣店」の歴史・民俗誌的研究 -街の“生き物”を扱う生業の現状と、「ペットショップ」に統合されてゆく過程を中心に		
	研究費総額	60 万円	助成額	30 万円
7	菊地 三恵	英国リンカーン大学 生物科学科 PhD Student /リサーチャー		48 才
	調査研究課題	「犬の人に対する攻撃性について日本人、英国人飼い主の考え方の比較調査～日本の飼い主の対応をいかにマネージメントしていくか～」		
	研究費総額	199 万円	助成額	35 万円
8	伊沢 都	ヒトと動物の関係に関する教育研究センター 犬部門長		31 才
	調査研究課題	適正飼育された犬がもたらす子供たちへの効果に関する研究		
	研究費総額	125 万円	助成額	45 万円

- ② 平成 23 年度の調査研究助成に関し、4 月の年度初めからの助成開始を目途に、募集および審査を行いました。合計 9 名の応募者があり、調査研究助成等委員会で審査を行った結果、候補者 5 名を選考しました。平成 23 年 4 月 26 日に予定の平成 23 年度第 1 回定例理事会に上程する予定です。

## 6) 機関誌等図書印刷物の刊行

### (1) 機関誌の発行

各号の主な内容は次の通りです。

#### 機関誌の内容 (抜粋)

213 号 (5 月発行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジョイバードライフ～愛鳥週間にちなんで～</li> <li>・英国の動物愛護団体の活動とは</li> <li>・平成 21 年度 1 級 25 期・2 級 29 期認定登録者会員名簿</li> </ul>
---------------	--

214号 (7月発行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回定時社員総会開催</li> <li>・家庭でできる消毒・除菌</li> </ul>
215号 (9月発行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第30回全国ペット写真コンテスト入賞作品発表</li> <li>・人と動物の関係に関する国際会議 (IAHAI0) 報告</li> <li>・全国動物愛護週間行事予定</li> </ul>
216号 (11月発行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬の暮らし向き調査研究 (2009年) の概要</li> <li>・全国動物愛護週間行事開催報告</li> </ul>
217号 (1月発行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卯年にちなんで「ウサギの本当のかわいさを知ってほしい」</li> <li>・福岡県動物愛護センター紹介</li> </ul>
218号 (3月発行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猫の暮らし向き調査研究 (2009年) の概要</li> <li>・落ちている野鳥のヒナを見つけたら</li> </ul>

### (2) 本協会ウェブサイト等の広報媒体の活用

インターネットによる公益法人のディスクロージャー (情報公開) の充実により業務運営の透明化及び適正化を図るため、最新の業務及び財務等に関する情報を公開しております。本協会ホームページのサーバー内に「支部ページ」を設け、希望する支部にホームページの開設の場を提供しております。現在、16支部が支部ページを設置しております。

なお、平成22年度の本協会ホームページへのアクセス件数は約47万件です。

愛玩動物飼養管理士通信教育を広く一般に広報するために、本協会ホームページに詳細を掲載するとともに、犬・猫雑誌、全国紙 (朝日、読売) に広告を掲載し、全国行政機関、全国公共施設 (公立図書館、生涯学習センター、大学・短期大学全学部、専門学校、高等学校等)、都道府県鳥獣商組合、ペット関連企業、犬猫雑誌購読動物病院、本協会35支部、本協会会員 (『愛玩動物』平成23年1、3月号同封) にポスター・チラシを送り、掲出等を依頼しました。

### (3) 飼養相談実例集及び飼育読本等の出版

愛玩動物飼養管理士実践ガイドブックとしての『ペット飼養相談の実例集』は、愛玩動物飼養管理士が普及活動を行う上で、飼養相談の実践に役立つよう編集したものです。平成20年度より、毎年改訂版を刊行するのではなく、2～3年に一度見直すこととしました。そのために平成22年度もVol.16を再版し、頒布しました。適正飼養管理知識普及のために、飼育読本シリーズは、新たに『小鳥の飼い方』を作成し、9月に刊行しました。

#### パンフレット等の頒布状況 (概数)

犬と楽しくくらすために① 飼う前に考えてみよう	1,285
ハムスター	2,690
ウサギの飼い方	3,390
十姉妹の飼い方	1,425
オカメインコの飼い方	2,010
沼ガメの飼い方	2,200
ねこの飼い方 (新刊)	5,290
小鳥の飼い方	1,410
ひとと動物の防災を考えよう	10,660
協会シンボルマークノート	18,980
協会シンボルマーク入りクリアフォルダ	16,930
協会パンフレット (3つ折り)	21,750
愛玩動物飼養管理士のしおり	10,705

折り紙 (犬)	12,000
折り紙 (猫)	12,000
動物○×クイズセット グリーン	10,000
動物○×クイズセット ブルー	10,000
動物○×クイズセット ピンク	10,000
計	152,725

## 2. その他本協会の目的を達成するために行った事業

### 1) 関係団体との情報交換等の実施

幅広い情報の収集を図るために、関係団体との情報交換を行いました。また、普及啓発活動の推進にあたって必要となる環境整備を図るため、災害時における動物救護及びマイクロチップ等による所有者明示措置等の関連事業を、関係団体との連携を図りながら実施しました。

平成23年3月11日(金)に発生した「東日本大震災」においては、これまでの経験、知見、資産を活用して、被災ペット支援活動を開始しました。環境省のご指導のもと、本協会が財団法人日本動物愛護協会、社団法人日本動物福祉協会、社団法人日本獣医師会と共に立ち上げた「緊急災害時動物救援本部」の構成団体としての活動を中心に取り組みました。

### 2) 「第22回日本動物児童文学賞」への審査協力

社団法人日本獣医師会が、次代を担う子どもたちのために、動物の愛護、動物の適正飼養、人と動物のふれあい、人と動物の共生等を扱った文学作品を世に送り出すことを目的に設置した児童文学賞で、本協会から椎野雅博副会長が審査員として協力しました。

### 3) 協会が関係する外部会議 (県令順)

平成22年度、本協会の役員・支部役員・支部会員・職員等が参加した外部会議は次の通りです。

名 称	目 的・事 業	委 員
環境省中央環境審議会動物愛護部会	動物関係法令の検討	臼井玲子
全国動物愛護推進協議会	動物愛護管理法の周知と推進	椎野雅博
緊急災害時動物救援本部	被災動物の救護	椎野雅博 平井潤子 白井百合
動物ID普及推進会議	マイクロチップの普及推進	椎野雅博
動物個体識別研究会	マイクロチップの総合的研究	崎田克康
動物愛護週間中央行事実行委員会	中央行事の実施計画立案	平井潤子 原 清士
ヒトと動物の関係学会	学際的な学術研究	小川益男
日本ペット栄養学会	ペット栄養学の学術研究	鈴木松衛
東京都動物愛護管理審議会	東京都における今後の動物愛護管理行政のあり方の諮問	崎田克康
ペット法学会	ペット諸問題の法的見地からの研究	小森直博
東京都動物愛護推進協議会	動物愛護管理推進	佐々木 勲
彩の国動物愛護推進員支援協議会	〃	平井潤子

北海道動物愛護推進協議会	動物愛護管理推進	武田和彦 名取裕憲
東北関東大震災での県内避難者同伴動物への対応等に係る検討会議	災害時動物救援対策	村上 泉
秋田県動物愛護推進協議会	動物愛護管理推進	村上 泉 千葉 紫
秋田県動物愛護推進計画検討会	動物愛護管理推進計画策定	藤田秀文
福島県動物愛護推進懇談会	動物愛護管理推進	長岡裕子
茨城県動物愛護推進協議会	〃	勝山亜佐美
茨城県動物の保護管理及び愛護啓発業務等プロポーザル審査委員会	〃	
栃木県動物愛護推進協議会	〃	福田真由美
宇都宮市動物愛護推進協議会	〃	
栃木県災害対策本部災害時避難動物対策班	災害時動物救援対策	
千葉県動物愛護管理推進協議会	動物愛護管理推進	川岸恵子
柏市動物フェスティバル in 柏検討会	普及啓発イベント企画検討	駒田房江 山内由美子
船橋市動物フェスティバル in ふなばし検討会	〃	駒田房江 八田裕子 村田真弓
船橋市ねこの飼育・管理に関するガイドライン検討会	ガイドライン作成	駒田房江
財団法人千葉県動物保護管理協会	千葉県内の動物愛護と適正飼養の普及	川岸恵子
神奈川県動物愛護管理推進協議会	動物愛護管理推進	山田広美
人と動物との共生推進よこはま協議会	〃	
横浜市動物愛護センター運営に係る意見聴取会	センター運営についての意見聴取	
横浜市動物救援連絡会	災害時動物救援対策	青木知子 山田広美
横浜市港南区動物連絡会	動物愛護管理推進	中村真由美
富山県動物愛護推進協議会	〃	日下まこ
福井県アライグマ防除実施計画検討委員会	アライグマ対策	坂川逸海
福井県動物愛護管理推進計画行動委員会	動物愛護管理推進	
福井県動物愛護フェスティバル 2010 打ち合わせ会	普及啓発イベント企画検討	坂川逸海 中屋敷隆夫
福井県動物愛護フェスティバル 2010 意見交換会	〃	
山梨県動物愛護デー検討会	普及啓発イベント企画検討	飯島英恵
静岡県動物愛護管理推進委員会	〃	沖 紀代
社団法人静岡県獣医師会	理事会・総会	
社団法人静岡県動物保護協議会	静岡県動物愛護フェスティバル 2010 実行委員会	
三重県動物愛護管理推進協議会	動物愛護管理推進	三宅須磨子

滋賀県動物保護管理センター事業推進協議会	動物愛護管理推進	足立由紀子
京都府動物愛護管理推進計画検討委員会	動物愛護管理推進計画策定	西原裕美
大阪府動物愛護推進協議会	動物愛護管理推進	西村尚一 喜多加津乃
大阪市動物愛護推進協議会	〃	榎谷敏江
大阪府災害時等動物救護マニュアル策定検討部会	大阪府動物愛護推進協議会専門部会 災害時動物救援対策	橋本美穂
兵庫県動物愛護管理推進協議会	動物愛護管理推進	芳川雅美 五十嵐真理子
和歌山県動物愛護推進協議会	〃	加賀友子
鳥取県動物愛護推進協議会	〃	山本由美 岩本頼親 松本あゆみ
岡山県動物愛護推進協議会	〃	池田 毅
倉敷市動物愛護管理審議会	動物愛護管理推進	
倉敷市適正飼育啓発員（仮称）育成部	〃	池田 毅 楠本浩子
岡山県動物愛護フェスティバル実行委員	普及啓発イベント企画検討	
岡山市動物愛護フェスティバル実行委員	〃	
倉敷市動物愛護フェスティバル実行委員	〃	
広島県動物愛護管理推進協議会	動物愛護管理推進	西原春美
香川県動物愛護推進懇談会	〃	長尾直枝
高知県動物愛護推進協議会	〃	吉村美紀 齋藤喜美子 石川充寿
福岡県動物愛護管理推進懇話会	〃	櫻内京子
福岡市動物の愛護と管理推進協議会	〃	高宮昌則
福岡県動物愛護週間行事打ち合わせ会議	普及啓発イベント企画検討	櫻内京子
福岡市動物愛護フェスティバル in ふくおか	〃	櫻内京子 高宮昌則 鮎川芙美子
古賀市「地域イベントまつり古賀」	〃	櫻内京子 柴田久美子
沖縄県動物愛護管理推進計画懇話会	動物愛護管理推進計画策定	宮城直子
那覇市環境推進員	動物愛護管理推進	宮城直子 他6名

(5) 各種行事への後援等

主 催	開催時期	開催地	内 容
全日本チャボ保存協会	平成 22 年 4 月	東京都	第 72 回チャボ全国品評会后援
公益社団法人日本動物病院福祉協会	平成 22 年 6 月	東京都	WJVF (WEST JAPAN VETERINARY FORUM) 第 1 回大会
動物愛護フェスティバル 2010 インおおまち実行委員会	平成 22 年 9 月	長野県	「動物愛護フェスティバル 2010 インおおまち」後援

三重県健康福祉部	平成 22 年 9 月	三重県	平成 22 年度動物愛護の絵・ポスター募集後援
リバティープットケアカレッジ	平成 22 年 10 月	愛知県	第 13 回犬山ワンワン運動会 広告協賛
公益社団法人大阪市獣医師会	平成 22 年 9 月	大阪府	第 88 回近畿地区連合獣医師大会並びに平成 22 年度日本獣医三学会（近畿）
社団法人ジャパンケネルクラブ	平成 22 年 12 月	東京都	ジャパンドッグフェスティバル 2010 後援

### Ⅲ. 役員、会議、委員会等

(平成23年3月31日現在)

#### 1. 役員等

役員 (21)	代表理事 (1)	会 長	小川益男
	業務執行理事 (4)	副会長	椎野雅博、鈴木松衛
		常務理事	佐々木勲、武田和彦
	理 事 (14)		池田毅、上田健治、臼井玲子、大島誠之助、川岸恵子、川口和清、喜多加津乃、斉藤久美子、鈴木登、東海林克彦、長岡裕子、林谷秀樹、平井潤子、山田広美
	監 事 (2)		天川九二夫、望月克夫
名誉会長 (1)		大鷹淑子	
相談役 (2)		経徳禮文、西村尚一	
顧問 (10)		猪俣治太郎、内田美由紀、實藤憲正、篠崎紘一、高田進、武富和夫、橋本洋一、花澤公子、山崎いく子、リチャード・ゴリス	

#### 2. 会議

社員総会、理事会、業務執行理事会

会 議 名		開 催 日	審 議 事 項
① 社員総会	第1回定時社員総会	平成22年5月27日(木)	平成21年度事業報告、決算報告、定款変更、役員選任
② 理事会	第3回定例理事会	平成22年5月27日(木)	平成21年度事業報告、決算報告、定款変更、役員選任
	第4回定例理事会	平成22年5月27日(木)	業務執行理事選定、認定委員選任
	第5回定例理事会	平成22年6月18日(金)	平成22年度各種委員会及び委員長選任、業務執行報告
	第6回定例理事会	平成22年10月26日(火)	諸規則変更、業務執行報告
	第7回定例理事会	平成22年12月3日(金)	諸規則変更、業務執行報告
③業務執行理事会	第1回業務執行理事会	平成22年5月11日(火)	平成21年度事業報告、決算報告、役員選任、業務執行理事選定、認定委員選任
	第2回業務執行理事会	平成22年6月3日(木)	業務執行理事の担当、職員担当業務、各種委員会の改廃・委員長選任
	第3回業務執行理事会	平成22年9月30日(木)	各種委員会の見直し、調査研究助成
	第4回業務執行理事会	平成22年12月2日(木)	調査研究助成金、専門課程
	第5回業務執行理事会	平成23年1月20日(木)	平成23年度事業計画・収支予算大綱、職員懇談会

	第6回業務執行理事会	平成23年3月10日(木)	平成23年度事業計画・収支予算、業務執行理事1名選定、調査研究助成金
--	------------	---------------	------------------------------------

### 3. 各種委員会

#### (1) 委員会の概要

委員会名	回数	審議事項
① 愛玩動物飼養管理士認定委員会	5	通信教育全般、教本審議、スクーリングカリキュラム、課題報告問題作成、認定試験問題作成、認定試験合否裁定等の審議
② 諸規則検討委員会	5	諸規程の改廃の審議
③ 倫理委員会	1	倫理規程の審議
④ 中央行事委員会	2	中央行事の企画立案及び実施
● 写真コンテスト審査会	1	写真コンテスト審査
⑤ 適正飼養普及委員会	3	飼育読本及びペット飼養相談事例集の審議、疾病予防に関する知識の普及
⑥ 公開セミナー委員会	3	公開セミナーの企画立案と実施
⑦ 支部運営委員会	4	支部設立、支部運営の指導・支援
● 支部運営小委員会	1	「支部活動の手引き」原案の検討
● 支部長会議	1	支部活動の指導・助言、予算決算
⑧ 管理士生涯学習委員会	3	管理士の卒業教育、動物愛護推進員の育成、動物関連法律・条令等の普及教育
⑨ 調査研究助成等委員会	2	大学等及び研究所への研究助成
⑩ 機関誌編集委員会	6	機関誌『愛玩動物』の企画・編集業務
● 機関誌編集小部会	6	機関誌『愛玩動物』の企画原案の検討
⑪ ホームページ委員会	1	ホームページのデザイン変更及びコンテンツ・支部ページの調整
⑫ 飼養管理調査研究委員会	3	犬・猫の暮らし向き実態調査
計	47	

#### (2) 委員長及び委員（50音順）

委員会名	委員長	委員
① 愛玩動物飼養管理士認定委員会	池澤聖明 (元総理府動物保護専門委員)	宇山理奈(アイドル総合病院副院長)、大木富雄(日本ペットフード顧問)、大島誠之助(倉敷芸術科学大学客員教授)、北垣憲仁(都留文科大学特任准教授)、斉藤久美子(斉藤動物病院院長)、東海林克彦(東洋大学教授)、菅野茂(東京大学名誉教授)、武部正美(武部獣医科医院長)、沼田一三(兵庫県動物愛護センター所長)、本藤良(日本獣医生命科学大学名誉教授)、水越美奈(日本獣医生命科学大学講師)、村松梅太郎(日本獣医生命科学大学客員教授)
② 諸規則検討委員会	鈴木(松)	小川、椎野、佐々木、武田
③ 倫理委員会	椎野	池田、川口、佐々木

④ 中央行事委員会	平井	岩浪、菰田、畠山
⑤ 適正飼養普及委員会	武田	飯島、上田、鈴木(登)、畠山
⑥ 公開セミナー委員会	山田	池田、川岸、菰田
⑦ 支部運営委員会	平井	飯島、池田、岩浪、坂川、山田、芳川
⑧ 管理士生涯学習委員会	上田	青木、荒井、長岡
⑨ 調査研究助成等委員会	委員名は公表しません	
⑩ 機関誌編集委員会	大島	伊藤、沖、喜多、斉藤(幸)、対馬、畠山
⑪ ホームページ委員会	川口	駒田、杉藤、渡辺
⑫ 飼養管理調査研究委員会	大島	坂川、菅野、対馬、林谷、山崎(恵)

#### 4. 支部

平成22年度は新たに愛知県に支部を設置しました。平成23年3月現在で次の35支部を設置しており、支部会員の登録率は25%です。

ブロック	支部名
北海道・東北(4)	北海道、宮城県、秋田県、福島県
関東(6)	茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
中部(7)	富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県
近畿(7)	三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国・四国(7)	鳥取県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄(4)	福岡県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
計	35支部
(注) 未設置県：青森県、岩手県、山形県、群馬県、新潟県、岐阜県、島根県、山口県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県(12県)	

#### 5. 会員の状況

(単位：名)

正会員	団体正会員	22
	個人正会員	113
一般会員	普通会員	15,465
	学生会員	718
賛助会員	個人賛助会員	0
	団体賛助会員	13
名誉会員		1

## 6. 役職員の状況

常勤役職員の状況

(単位：名)

区 分	年度初	増 加	減 少	年度末
役 員	2	0	0	2
職 員	8	0	0	8
計	10	0	0	10

以 上